

体育大会に向けて

4連休が終わり、大きな事故や事件もなく、みなさんと会えたことを嬉しく思います。「命を大切に作る行動」を心がけてくれたおかげです。また、中間テストが今日で終わりました。結果が出るのは来週になりますが、みなさんの努力が発揮できていることを期待しています。

ところで、新型コロナウイルス感染症対策のため、5月から延期になっていた体育大会が、いよいよ10月11日(日)に開催になります。16日前の本日「結団式」を行いました。(まだ、これを書いている時はあっていません。次のたよりで紹介します)これから約2週間、3年生や各リーダーが中心となり、自分たちで考えて、動いて、体育大会を大成功に導いてくれることを楽しみにしています。

「学ぶ」ということ

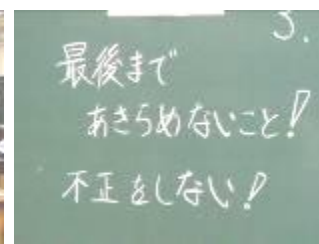
9月16日に第99代首相に菅義偉(すが よしひで)氏が就任しました。ある解説書には「いちご農家に生まれましたが、学校や社会で学んでいるうちに家業を継ぐのではなく、『政治家になりたい』という夢が生まれたそうです。そして努力を重ね、夢を実現されました。」という内容が書かれていました。諸外国ではこの話は驚きを持って受け止められているそうです。

ところで南阿蘇村では「勉強したい」と思っている人に、希望すれば無料で参加できる3年生対象の村営塾(南阿蘇中で実施)と全学年対象の学習会(南阿蘇村福祉センター)があります。自分の夢の実現には「学力」が大切な要素の1つを占めています。南阿蘇村には、学校教育以外に「学びの場」が用意されていることがすばらしいと思います。そしてもっとすばらしいのが自分で参加するかしないか決められる(決定権は自分にある)ことです。令和時代の日本の教育について次のように言われています。

「子どもの主体性や自律性を育てることがいま必要です」

今月発表されたユニセフ(=国連児童基金)の調査で、日本の子どもは「身体健康」が先進国38カ国中1位でしたが、「精神的な幸福度」では37位でした。まさに日本の子どもを象徴しています。この理由は簡単に自己決定をしていないからです。主体的でなく受け身の子どもや、きちんと素直にこなしていく子どもが褒められる。子どもが放課後学習塾に行き夜遅くまで勉強をやっている姿はふつうではありません。創造せず与えられたタスクをこなすだけの人間をつくってはいけません。自ら選んでどう24時間をマネジメントするか、子どもが工夫し作り上げていくのを大人が支援するべきです。

上記の村営塾と学習会がまさに令和時代の日本の教育がめざすものです。今回の中間テストに向けて、参加しているみなさんの中には「勉強したくない」「いっちゃん分かん」と嘆いている人もいましたが、そう言いながらも、先生のアドバイスを聞いて奮闘していました。自分たちで考えて、質問するために動いていました。この人たちのように主体的(自分から動く・あきらめない)に力を伸ばしてください。(中間テストの様子)



「レベル4」→「レベル3」に

9月23日に熊本県新型コロナウイルス感染症対策本部事務局からリスクレベルを「レベル3警報」に引き下げ、状況に応じたメリハリの利いた対策を実施していくこととする。とありました。学校ではこれまで同様に新しい生活様式に基づく、新型コロナウイルス感染症対策を続けていきますが、段階的に室内での集会のあり方や、PTA活動等の参加人数や形態を見直していきます。今後の県の状況を確認しながら、後日お知らせします。

※レベル4からレベル3になったことで変わるのが生徒の出欠で、レベル4では同居の家族に発熱等の風邪症状が見られる場合は出席を控える(停止)でしたが、レベル3では「出席できる」になります。

※裏面には座長コメントを載せています。

2 熊本県・熊本市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議 座長コメント (9月21日現在)

○熊本県内では、先週(9/15～9/21)、新規感染者は2例(うち感染源が特定できないリンク無し感染者1例)が確認された。

○県全体では、これで4週連続新規感染者が減少しているほか、熊本市内についても、直近3週間で減少ペースが加速している。特に先週は県市ともに「レベル2警戒」の基準に相当する感染者数である。

○また、新規感染者数の減少に伴い、入院患者数については、最新の公表情報によると、県全体で18名、うち熊本市内で7名となっており、病床稼働率にも一定の余裕が生じている。また、市が独自で実施している中心市街地の飲食店従業員への緊急検査では、9月19日時点で累計169件を実施した結果、陽性者は確認されていない。

○レベルを下げる際は、前週、前々週の感染状況から判断することとなっているが、上記の直近4週間の推移や先週の感染者数、さらに病床稼働率等を鑑みると、県市ともにリスクレベルの最高段階の状況からは落ち着いていると判断でき、「レベル3警戒」に一段階引き下げることが妥当である。

○一方で、10月には、地域経済回復の観点から、GOTOトラベル事業の対象に東京都が追加されるほか、GOTOイート事業が開始されることなど、県境をまたいだ人の移動や交流が活発化する可能性が高い。

○県市ともに、そうした状況の変化を注視しつつ、引き続きメリハリの利いた接触機会の低減を図り、感染拡大のリスクが高い部分について確実に対応していく必要がある。

○県民・市民及び事業者の皆様は、レベルが下がったことに油断することなく、引き続き「3つの密」の回避をはじめ、「新しい生活様式」の実践に取り組んでいただきたい。